

# 高知精神保健

発行所 高知市丸の内1丁目2-20  
高知県健康福祉部健康づくり課内  
高知県精神保健福祉協会  
電話：088(823)1111・088(823)9669(直)  
FAX：088(873)9941  
E-mail：kochi-mhwa@s2.dion.ne.jp  
発行人 池田 久男 編集人 谷 晃

## 第234号

## 働く人のメンタルヘルス ～精神保健福祉大会ご案内～

高知大学 井上新平

本年の高知県精神保健福祉大会は、日本精神衛生会が各地で主催している精神保健シンポジウムとの同時開催になります。中味が同じで2つの大会名がかかっているということでご理解いただければと存じます。

大会テーマは「働く人のメンタルヘルス ～今、私たちの職場でできることは？～」です。近年、働く人々にとってのストレスはますます増大し、6割以上の方が強い不安やストレスを感じていると言われています。この問題を個人の側から見れば、ストレスは仕事の能率の低下や対人関係の問題につながったり、ひいては種々の心身の疾患につながったりします。そうなること経済生活のみならず家族関係など種々の社会生活への影響が避けられません。事業所側から見ると、休業や労災補償などによる対策、また発病や再発を防ぐための対策が求められています。その中でも国の施策であるトータルヘルスポモーション(THP)に基づく健康管理(健康診断、健康指導など)、特に心理相談の体制も整備されつつあるようです。さらには地域の病院や保健福祉関連の機関も、多くのケースに関わりその回復の手助けに一役買うようになり、それを支える学会や研究会の活動も急速に広がっ

ています。働く人のメンタルヘルスは社会全体で取り組むべき大きな問題と認識されています。

今回のプログラムは特別講演とシンポジウムの2本立てです。特別講演では、産業医科大学の廣尚典准教授に「職場におけるメンタルヘルス対策の現状と課題」のタイトルでお話いただきます。健康増進、発病の予防、早期発見、治療やケアの導入、職場復帰と再発予防、という一連の問題点や現状について総括的なお話が聞けるのではないかと期待しています。続くシンポジウムでは、県内で活躍されている4人の方にお話いただきます。それぞれのテーマとしては、高知県労働局の大野義文氏はメンタルヘルスの背景にある長時間労働や就業規則等制度的な問題、高知大丸の槇本宏子様は企業における取り組み、特に復職支援活動、高知県総務部の杉原由紀様は県庁における職場復帰援助活動や産業医の立場から見た問題点、高知県障害者職業センターの竹本嗣康氏はセンターで取り組まれているリワーク(職場復帰支援)、をとり上げてお話いただく予定です。シンポジウムでは職場復帰の活動について様々な面から検討できるのではないかと期待されます。

### 目次

精神保健福祉大会ご案内	1
こころの日のイベント	2
こころをつなごう in 芸西	3
ソフトボール大会の結果について	4

精神保健福祉大会広告	4
------------	---

### 関連ホームページ

ドキュメンタリー映画「心の杖として鏡として」

<http://www.ableart.org/film/>

プログラムは実行委員会で検討、立案しました。委員会は産業精神保健に造詣の深い専門家を中心とした9人からなり、いとうクリニックの伊藤高先生がリードされ、5回にわたり毎回夜遅くまで議論しました。上記のようなプログラムの流れで、発病予防から社会復帰支援までのメンタルヘルス対策の現状をご理解いただけるのではないかと願っています。

短い時間ではありますが、本大会を通して、参加者の認識が深まり、ひいては高知県におけるメンタルヘルスの向上の一助になれば幸いです。

大会実行委員会委員長  
井上新平

## こころの日のイベント

日本精神科看護技術協会高知県支部  
組織強化委員長・吉井秀幸

日精看では、毎年、精神保健法施行の日である7月1日を中心に「こころの日」を開催しています。「こころの日」は、精神疾患や精神障害者に対して正しい理解を図り、心の健康の大切さを再認識していただく為、一般市民の方々を対象に精神科看護のアピールに取り組んでいます。

今年は、7月7日高知県立人権啓発センターで「心の杖として鏡として」の上映会と、この映画の造形教室を主宰する安彦講平先生とのアフタートークを行いました。又、会場には造形教室で描かれた絵画数十点を展示し、絵画の内容についての説明も行われました。

この映画は、ある精神科病院「平川病院」で、週2回開かれている造形教室が舞台となっています。教室を主宰する安彦講平さんは、40年間、心に病を抱える人たちとともに絵を描き、語り合う活動を続けてきました。教室のアトリエでは、参加者が思い思



いに絵を描いたり、技法も様々である。ギターで作曲演奏をしたり、詩を書いて朗読したりする人もいました。教室の合評会では、互いに作品の感想を述べ、励まし合う。外部での展覧会も定期的に行われています。

36年前に安彦さんに会って絵を始めた名倉さんは、閉鎖病棟に入院していた頃の思いを描いた作品の前で、当時の記憶を話しています。当日、会場に展

示されていた絵の中に、名倉さんの作品がありました。保護室の中から見た鉄格子が描かれており、大変インパクトの強い絵でした。

強迫性障害をもつ本木さんは、初めは明るい色彩の絵を描いていたが、ある時より、風呂や水道の栓を何度も確認したりする自身の症状をテーマに描いています。心の傷や不安を描くことで気持ちが楽になり解き放たれるのだという。表現をすることが、自分を支え癒してくれる「心の杖」となり、自分自身を見つめる「心の鏡」となっていると言う。

又、本木さんが、長谷川さんのギターに合わせて詩を朗読する場面がある。「或る日、心を病んでいると言われる僕は、本当の自分に向き合っているか疑った。キャンパスに傷を描け！そういう自分が頭をもたげた。海の上に浮かぶ貝殻に・・・病んでいると言われていたうちに描くのは、実は千載一遇のチャンスなのだ。芸術とは治ってはいけない病気なのだ！そう・・・自分で自分を解放してやるのだ。」と心の叫びのような朗読をしました。

この本木さんも、当日のアフタートークに参加してくれました。

安彦さんは、「僕は技術を教えるより、絵を通じた交流の場を作ろうとしている。描くことで心の病を治すのではなく、癒す。心の傷と折り合っていく寛容な気持ちになるまで、気長に待つことが大切だと思う。」と語っていたことが映画の内容を物語っていました。

心の日のイベントには、100人位の参加者があり、皆が感動した一時であったのではないかと思います。

# こころをつなごう in 芸西

—ともに生きる明日をめざして—

高知県精神保健福祉協会研修委員会は、平成19年9月21日(金)芸西村民会館において地域交流および研修の会を開きました。地元安芸郡を中心にたくさんの施設やグループからの100人近い参加者がありました。

午前中岩村院長(芸西病院)の基調講演の後、高知を中心に活動している歌手う～みさんの元気がこぼれるLIVEコンサート、おいしいカレーの昼食を食べた後、午後レクリエーション「長谷部君と一緒に遊ぼう!!」を楽しみました。

(ペットボトルのキャップに絵を描いて参加者全員で作った作品は、後日高知県立美術館で開催された「スピリットアート展」に入選しました。)



疲れた時と肌あれに。

ヒューマン・ヘルスケア  
**hvc**  
EASy

吸収のよい補酵素型の  
ビタミンB2主剤。医薬品の効きめ。  
**チョコラBBプラス**  
【医薬品】

効能・効果 ●次の場合のビタミンB2の補給：肉体的疲労時、妊娠・授乳期、病中病後の体力低下時  
●次の諸症状の緩和：肌あれ、かぶれ、ただれ、にきび、湿疹、皮膚炎、口内炎、口角炎、口唇炎、舌炎、赤鼻、目の充血、目のかゆみ「ただし、これらの症状について、1か月ほど使用しても改善がみられない場合は、医師又は薬剤師に相談すること。」  
●服用に際しては、使用上の注意をよく読んで正しくお使いください。

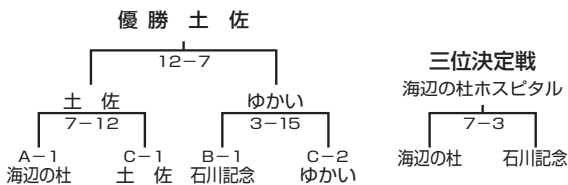
平成19年度 精神保健福祉ソフトボール大会の結果について

I と き 平成19年10月2日(火)
II と ころ 高知県立青少年センター
III 日 程 開会式 8:50 試合開始 9:10 閉会式 15:40

優勝 土佐病院
準優勝 ゆかい(一陽合同)
第三位 海辺の杜ホスピタル
第四位 石川記念病院

Table with 2 columns: 順位 施設名 成績. Rows for Aゾーン, Bゾーン, and Cゾーン results.

決勝トーナメント



- \* 決勝戦は、土佐が予選からの勢いそのままに得点し、3回の表で7-1とリード...
- \* 優勝の土佐病院チームは、迫力のある打線と内野手のすべてが患者さんにもかわらず堅実な守備が非常に印象的でした。
- \* 朝の開会式より抜けるような秋空がひろがり、日程を消化することができました。

第47回 高知県精神保健福祉大会
第52回 精神保健シンポジウム
働く人のメンタルヘルス
今、私たちの職場で
できることは?
2007年
10月30日(木) 午後0:30~4:30
高知県民文化ホール(グリーン)
入場無料

特別講演
「職場におけるメンタルヘルス対策の現状と課題」
講師 廣 尚典氏 (産業医科大学産業生態科学研究所精神保健学准教授)
座長 井上 新平氏 (高知大学副学長)

シンポジウム
「高知県における取り組みと今後の課題」
～職場復帰を中心に～
シンポジスト
大野 義文氏 (高知労働局労働基準部安全衛生課)
榎本 宏子氏 (㈱ 高知大丸総務・人事部)
杉原 由紀氏 (高知県総務部職員厚生課)
竹本 嗣康氏 (高知障害者職業センター)

コメンテーター
廣 尚典氏 (産業医科大学)
伊藤 高氏 (メディカルカウンセリングルーム いたうクリニック)
司会
大原 啓志氏 (高知産業保健推進センター)
真田 順子氏 (菜の花診療所)



「医薬を通じて、
人々の健康と幸福に
貢献したい。」
これが吉富薬品の願いです。

吉富薬品株式会社

DAINIPPON SUMITOMO PHARMA
からだ・くらし・すこやかに
大日本住友製薬株式会社
〒541-0045 大阪市中央区道修町2-6-8 http://www.ds-pharma.co.jp/